

# 日本共産党各議員の一般質問予定

## 上野公悦議員 (12番目 9月18日(金)の見込み)

1. コロナ禍における対応と支援策について
  - (1) 感染リスクが高く、極めて重要な分野に携わる医療や介護従事者、保育園や学校関係者へのPCR検査等の実施について、以下の点を聞きたい。
    - ア 国及び県の責任において定期的に検査する必要があると考えるがどうか。
    - イ 検査費用は全額公費負担とするよう、市としては国及び県に積極的に求めるべきと考えるがどうか。
  - (2) 市の各種公共料金の減免や納税猶予などの支援策が随時終了していくが、新型コロナウイルスの収束まで継続すべきと思うがどうか。
  - (3) ひとり親家庭、特に母子世帯に対する生活支援について以下の点を聞きたい。
    - ア コロナ禍での就労や収入への影響をどう捉えているか。
    - イ 国の「ひとり親世帯臨時特別給付金」の再支給など、各種支援策の拡充を国に求めるとともに、市としてもさらなる独自支援を行う考えはないか。

## 2. 小木直江津航路におけるカーフェリー就航の存続について

- (1) 経済的位置づけとして絶対に外せない2つの柱である物流維持と観光戦略の側面から、カーフェリーの就航存続は必要不可欠であると考えますが、どう考えるのか。また、カーフェリー存続を佐渡汽船や新潟県に強く働きかけるべきであると考えますがどうか。

## 3. イノシシによるほ場や農作物への被害について

- (1) イノシシによるほ場や農作物への被害が深刻になっている。被害の実態をどう捉えているか。
- (2) 被害防止のためのより有効な対策が緊急に求められている。現状においてどのような対策を行っており、効果をどのように検証・評価しているのか。また、より有効な対策についてどう考えているのか。

## 橋爪法一議員 (23番目 9月24日(木)の見込み)

1. 農業問題について
  - (1) 新型コロナウイルス感染症が明らかにした日本の農業政策の問題点をどう認識しているか。
  - (2) 改定された農林水産省の「食料・農業・農村基本計

**日本共産党上越市議員団ニュース**  
No.673 2020年9月13日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

9月定例議会では、32人の議員中27人が一般質問(17~24日)に立ちます。日本共産党の3人の議員の質問内容は次の通りです。ぜひ、傍聴においでください。

- 「画」をどう見ているか。
- (3) これからの上越市農業を発展させるためにどうするか。
2. 原子力発電所対策について
  - (1) 新型コロナウイルス問題への対応が求められる中で、原子力災害の避難計画で検討すべき課題と今後の対応について聞きたい。
  - (2) 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働をめぐり、同意を求める自治体の範囲について新たな動きが出ているが、改めて市長の考えを聞きたい。

## 平良木哲也議員 (24番目 9月24日(木)の見込み)

1. 小中学校における少人数学級の実現について
  - (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止と子どもたちの学びの保障のため20人程度の少人数学級が必要ではないか。
  - (2) 少人数学級の実施を可能とするために、小中学校の教員の抜本的な増員をはかるよう県および国に強く求めているかどうか。同時に経過措置として市独自で加配してはどうか。

## 2. 病院のあり方について

- (1) 厚生労働省は昨年9月に一方的に病院名を公表して公立・公的病院の再編都合を求める姿勢であり、新潟県は柿崎病院など4つの県立病院を市町村主体の経営にするという姿勢である。これらに対して、これまでに市と国および県の間で行われた協議などの経緯を明らかにされたい。
- (2) 新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、ICUをはじめとした新型コロナ感染症患者受け入れのための病床の確保と、十分なスタッフの増員が求められている。市としては、国や県に対してこうした新たな視点で各病院を守り充実させるよう求めるべきと考えるがどうか。

## 3. 新型コロナウイルス感染拡大から市民生活を守る上での緊急課題について

- (1) 保育士の配置基準や面積基準などの保育基準を市として独自に上乘せし、必要な措置を講じてはどうか。
- (2) 市内の各医療機関および介護事業所に対し、市として緊急の支援を行ってはどうか。また、それら施設内で感染者が報告され、一定の期間閉鎖となるような場合に対応し、その後の事業継続に向けた支援策を講じてはどうか。
- (3) 小中学校に消毒担当専門職員を新たに配置してはどうか。
- (4) 社会福祉協議会が行っている緊急小口資金貸し付け(特例)および総合支援資金貸し付けコロナ特例について、厚生労働省の通知とは異なる取り扱いがされているとのことであるが、市としてそのことをどう把握し、どう対応しているか。



# 平和式典への中学生派遣減らしたことの総括を橋爪議員が総括質疑

1回しか派遣できなくなりましたが、市は昨年の報告会の成功などをもって、「派遣人数を8人にしたから、体験の共有化を図ることができた」と一面的に評価し、平和予算の削減を正当化しています。

橋爪議員は、「妙高市や糸魚川市では多数の中学生を派遣している。当市でも、上越市非核平和友好都市宣言に立ちもどって総括し、

対して市当局は、「コメ以外ではそば、大豆はつかんでいるが、補

9月定例市議会2日目の3日、橋爪議員が行った総括質疑(提出議案に対する質問)では、昨年度の決算や今年度の補正予算についての論戦が交わされました。

昨年度決算で論戦になったことの1つは、広島平和記念式典への中学生派遣事業です。市は「行政改革」の中で、一昨年度まで全中学校から合計24人の生徒を派遣していたのを、昨年度から8人にしました。この結果、各中学校は3年に

広島の現地で学ぶことを広げるべきではないか」と訴えました。

これに対して市当局は、「参加した生徒が平和の尊

助の申請がないと把握できない。また、自家菜園は支援の対象になつて(おらず把握できて)いない」と答え、実態把握に限界があることを明らかにしました。

## 有害鳥獣被害の実態は

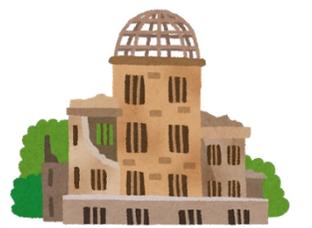
橋爪議員は、イノシシなどによる農業被害が69.8万円とされていることに触れ、「多くの農家から悲鳴が上がっている。実際の被害額はどうか。十分に把握されていないのではないか」とたどしました。

これに対して市当局は、「補正予算の編成にあたっては、7月末に市役所の各部署が集まって検討した。米価対策などの点でも、今後必要があれば予算化する」と応じました。

## 上越保健所管内感染症発生状況

(9月5日現在)

PCR検査実施件数	1,287件
感染症患者数	15人(上越市内14人)
陽性率	1.17%



## 米価下落への対策は

橋爪議員は、補正予算の基本姿勢について、「新型コロナウイルスの感染拡大によって、米価の下落も懸念されている。その視点での対策予算はどうなっているのか」と指摘しました。